



みのり

発行所 金光教寝屋川教会

〒572-0037 寝屋川市葛原新町 1-11

TEL 072-829-5129

Eメール koichivasui@yahoo.co.jp

他を責むることより
われの改まる不断の努力
つづけねばならぬ

四代教主金光碧水(鑑太郎)様のお歌

金光教祖のお徳を讃える生神金光大神大祭が御本部祭場で3度にわたって仕えられます。当教会は、第2日の10月5日(日)に参拝を予定しています。

御教えに、『此方(このかた)金光大神あって、天地金乃神のおかげを受けられるようになった。此方金光大神あって、神は世に出たのである。神からも氏子からも両方からの恩人は、此方金光大神である。金光大神の言うことにそむかぬよう、よく守って信心せよ。まさかの折には、天地金乃神と言うにおよばぬ。金光大神、助けてくれと言え、すぐにおかげを授けてやる』とあります。

金光教祖が天地の親神様からこのようにあつい信頼を受けられた元は、教祖様42歳の折のご事績からうかがえます。

○

安政2年4月末のこと、教祖様はのどが腫れ、高熱が出て、湯水も通らなくなり、さらにもの言えなくなり、医師の治療を受けました。医師によると「のどけ」という重い病で「九死に一生」との診断でした。一家の主が亡くなつては大変と親類の人たちが集まり、古川治郎(教祖様の妻の弟)氏を先頭に立てて病氣全快を祈りました。その時、治郎氏に神がかりあって、「建築、移転につき、金神に無礼あり」とのお言葉でした。古川八百蔵(教祖様の妻の父)氏は、即座に「当家において、金神様におさわりはしない。方角を見て建てた」と強く言い返されます。この問答をふすま越しに聞いておられた

教祖様は、「何ということ言われるのだろう」と申し訳なく思われ、お詫びせずにおれぬ気持ちになりますと、急にものが言えるようになり、「ただ今、義父の申しましたのは、何も知らずに申したのでございます。この度の建築に当たり、してはならないと言われたのを無理にお願いして、方角を見てもらい何月何日といって建てましたが、狭い家を大きい家にしましたから、どの方角へご無礼しておりますか、凡夫で相分かりません。方角を見て済んだとは、私は思いません。以後、ご無礼のところ、お断り(お詫び)申し上げます」と一心にお詫びをされます。それに対して神様は、「その方は行き届いておる。正月元日に氏神社に参って来て、手を合わせてどのように頼んだか。氏神をはじめ神々はみなここへ来ている。その時『当年42歳、厄年。厄負けせぬようお願い申し上げます』と頼んだであろう。本来なら熱病にかかるところを、熱病では助からないので、のどけに神がまつりかえてやったのである。信心の徳をもって神が助けてやる」とのお言葉がさがり、さらに「信心しなければ厄負けする年だった。5月1日には靈験を授けてやる。……一代、壮健(まめ)で米を食べさせてやる」と真にありがたい神様からのお言葉でした。

(『金光大神』65頁～67頁、『教祖さま』上巻P83～86参照)

(裏面に続く)



私どもの日常の心のあり方を見て、とにかく良いことが起こると自分がやったからだと思ひ、逆に悪いことが起こると自分以外の誰かの責任に転嫁することがよくあります。

古来より悪事災難が起こると、その原因を自分達の至らなさとして顧みるよりも、とにかく「金神のたたき」だとされ、悪神邪神と恐れられてきました。教祖様の「凡夫で相分かりません」「これで済んだと思いません」との誠実な神様への向かい方が金神様の御心に適い、その後の教祖様のご信心の展開を通して、金神様は実は天地の守護神、天地の親神様であることが次第に明らかとなり、やがて天地金乃神と神名が定まります。同時に教祖様も生神金光大神との神号を受けられることになりました。

天地金乃神様が私どもにかけられている願いについて「天地の間におかげ知ったものなし。おいおい三千世界、日天四（子）の照らす下、万国まで残りなく金光大神でき、おかげ知らせいたしてやる」とあります。私たちは他を責めず、不断に自己の改まりに努め、信心の徳を高め、少しでも神様の願いに沿う生き方に努め、おかげを受けてまいりたい。世話になるすべてに礼をいう心を常に土台とし、神と人との関係、人と人との関係、人と万物との関係においても、「あいよかけよで立ち行く」あり方を進め、互いに喜びあえる心をもって生神金光大神大祭に臨ませて頂きたくお願いいたします。（教会長）

秋 季 霊 祭

秋季霊祭前日の9月22日（月）午前10時半より教会奥城で墓前祭が仕えられ、翌9月23日（火・祝）午後2時より当広前にて秋季霊祭が仕えられました。ご縁のある御霊様方のお道立てを祈り、子孫である私たちもまた御霊様の願いに沿って信心を進め、身代、人間、達者の上におかげを受け、世のお役に立たせて頂きますようにと教会長より祭詞が奏上されました。

ご本部生神金光大神大祭 参拝について

10月5日（日）8時に教会を出発し、御本部祭場で13時30分より仕えられるご祭事に参拝を予定しております。

ご本部へのお供えにつきましては10月2日までにお結界へお届けください。

当教会の生神金光大神大祭について

御本部で仕えられます生神金光大神大祭のご比礼を仰ぎ、教主金光様のお祈りのもとに、当教会では下記のとおり仕えさせていただきます。繰り合わせ、参拝のおかけをこうむられますようご案内申し上げます。

記

10月26日（日）午前11時より祭典

祭典後の宣教

講師 田中 潤 先生（鶴甲教会長）

講題 『よろこびの心を広げて』

※準備の御用は、前日は午前9時より、当日は午前10時より開始。ご奉仕方、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

冊子《いぶき》原稿募集

当教会の生神金光大神大祭に向けて発行させていただきます。おかけを頂いたこと、気づいたことなど、400字詰め原稿用紙3枚以内にまとめ、10月19日（日）までにお届けください。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和7年教会の願い

金光様、日々有難うございます。
和らぎよろこぶ心を土台に
辛抱強く信心の稽古に努め
身代、人間、達者の上におかげを受け
世のお役に立たせてください。

生きることにすばらしい

どの宗旨もくさすことはない

みな天地の神様の氏子である

天が下に他人はない

（理解Ⅱ 佐藤光治郎の伝え）

自分の信仰が有難いとか尊いという思いを持つことは結構なことです、同時に他の信仰を引き合いに出して、くさすといったことがあります。教祖様は、参拝者同士の間でそうしたことがあると、非常に厳しく戒められました。

本来、人が助かるために生まれた宗教が対立、紛争、戦争の原因になってきた歴史があります。とても残念なことです。

これからの人類にとって大切なことは「共生」、共に生きるということです。そのためには、自らと異なる他者を認める心と姿勢を大切にする必要があります。自らが信ずる信仰、宗教の教義を大切にすると同じように、他の信仰、宗教も認めていく寛容性がこれからの世界人類の真の平和にとって不可欠です。幸いなことに、近年、宗教の枠を超えた平和への努力が宗教者同士の交流や協力によって進められつつあります。

人が助かることさえできればよい、という教祖様の言葉に示された信仰、宗教本来の使命を根本に、教義、歴史、儀礼の違いを超えた宗教協力を推し進めていくことが願われます。

（天王寺教会発行『生きることにすばらしい』第2集より抜粋）

よかった日記より（教会長）

○民生児童委員の後任決定（7月21日）
民生の 御用引継ぎ 大切な
社会の使命 消してはならず

○外の洒掃（掃除）をして（7月29日）
日のもとで 風さわやかに 汗流す
心と体 元気増進

○教会の会計入力をして（8月2日）
金銭の お繰り合わせを 願いつつ
無駄のなきよう 我欲戒む

○少年少女全国大会参加（8月9日）
おかげ受け 子や孫たちと 楽しみて
全国大会 参加嬉しや

○お盆に奥城墓参して（8月12日）
子や孫と 奥城参拝 にぎやかに
互いの健康 感謝しあう

○終戦記念日（8月15日）
戦争の 傷跡深し 今もなお
各自の心 不和の無きよう

○77回目の誕生日（8月19日）
ここまでの 生かざる歩み 顧みて
ひたすら喜び 喜寿にこころす

○布教部宣教の御用（8月24日）
話すこと まずは己に 言い聞かせ
己の敵は 己にありと

○月頭祈願祭を迎えて（9月1日）
どのような 状況にても まずお礼
和らぎ喜ぶ こころ土台に

○第五連合信行会に出席（9月6日）
問題の 提起大切 祈りつつ
金光様の 取次基本に



10月の予定

日	曜	教会行事	教会長、その他	日	曜	教会行事	教会長、その他
1	水	月頭祈願祭・14時		16	木		
2	木			17	金		
3	金			18	土		
4	土			19	日	月例霊神祭 14時 『いぶき』原稿締切	
5	日	ご本部大祭参拝 8時教会出発		20	月		
6	月			21	火		
7	火			22	水	『いぶき・みのり』 編集会議 10時40分	
8	水			23	木		
9	木			24	金		
10	金			25	土	大祭前日御用 9時～11時半	
11	土	※年間予定での月例金光大神祭は、翌12日に変更	ふくし西まつり 10時～17時	26	日	生神金光大神大祭 11時から祭典、宣教	
12	日	月例金光大神祭 14時、大祭打合せ		27	月		
13	月			28	火		
14	火			29	水		
15	水			30	木		
				31	金		

10月のご霊神様（内は帰幽年月日）

野村貢乃霊（平成12年10月10日） 井形アヤ子大刀自乃霊（平成12年10月11日）
 今うた姫乃霊（昭和19年10月12日） 加藤タカ姫乃霊（昭和11年10月14日）
 加藤直治乃霊（昭和14年10月14日） 池端勘治郎乃霊（昭和6年10月15日）
 越智忠徳翁乃霊（平成30年10月19日） 増満直次郎彦乃霊（昭和17年10月30日）

10月のお誕生

安井史佳様、松ヶ角紗良様、池端晴美様、永田芙美子様、
 井形峻伍様、外薊洋一様、安井雅子様

お誕生日おめでとうございます

